

広州市は、中国南部沿岸部に位置する人口約 1000 万人の大都市です。現在 2010 年 11 月のアジア大会の開幕に向けて急ピッチで都市整備が進められています。私は、2007 年 4 月から 2010 年 3 月までの 3 年間、広州日本人学校に勤務しました。

広州日本人学校は全校児童生徒 400 人前後、小学部 300 人余り、中学部 70 人前後を推移しています。小学部は各学年 2 クラス、中学部は各学年 1 クラスの編成で、縦割り集会、小 5 からの委員会活動、4 色対抗の縦割り運動会、学習発表会など、小中合同で行います。

2007 年から中学部 1 年は「中国の国父」と呼ばれる「孫文」の故郷である中山市で 1 泊 2 日の宿泊研修を取り入れています。小中併設で中学生といってもあまり変化のない環境で、中学生としての自覚を育て、中学校生活のスタートを切ることが研修の目標でした。といっても中国という日本とは勝手の違う研修先、限られた活動範囲の中でどう研修を充実させ、目標に迫るかは苦慮するところでした。初年と 3 年目の 2 回、中 1 を担当し、5 月中旬の中山宿泊研修にかかわることができました。



2 度目の中山宿泊研修では、研修の目的を中 1 での仲間作りと「知る・深める中国」をテーマにした総合的な学習の時間の調べ学習の第一歩として位置づけました。「知る・深める中国」では、見学先である華南地区

最大の中国式庭園である詹園（せんえん）、中山故居・中山博物館、洋風建築を取り入れた独特の中国建築の並ぶ孫文路散策の 3 つを課題追究班別自主活動①②③としてフィールドワークをしました。宿泊ホテル到着後、1 時間を各班のまとめの時間として、夜の学級の時間の発表に臨みます。

19:30~22:00 の学級の時間のプログラムは 3 部構成です。第 1 部「知る中国」プレゼンテーションでは、その日見学先で撮った写真や実地体験の感想をもとに構成した各班のプレゼンテーションが発表され、中国を見る新鮮な視点に驚かされました。第 2 部「名づけ」コンペティションとは、仲間作りに目的を置いた活動で、自分たちの学年に中学 3 年間さらには同窓会までの名づけを行うというものです。ネーミングと披露するパフォーマンスを競い、宿泊研修前学校で各班秘密裏に活動しました。当日披露された 6 班の名づけとパフォーマンス内容は、顔出し紙芝居や寸劇、ダンス、ミュージカルなどのバラエティに富んだものでした。名づけは参加者全員による投票で「Sunshine(陽光)」に決定し、第 3 部フィナーレでは、学年名のもと 1 人ひとりが抱負を語り、校長先生からも「太陽のように明るく月のように優しく」とメッセージをいただきました。

中山宿泊研修での目標を達成できたのは、広州日本人学校で「チャレンジする精神」を学んだことが大きかったと思います。私自身は中学校国語に加えて、小学校と中学校家庭科を受け持ちました。その反対に、小学校育ちの先生が中学校の体育を指導し、中学生に臆することのないエネルギッシュな姿勢に刺激を受けました。やってみようと思える気持ちがすべての原動力になるということを知ることのできた 3 年間だったと思います。